

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉高2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝霞本町二丁目プロジェクト	階数	地上15F
建設地	埼玉県朝霞市本町二丁目6番5、6、7	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火指定なし	平均居住人員	308 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年4月22日
敷地面積	1,519 m <sup>2</sup>	作成者	共同エンジニアリング(株)
建築面積	610 m <sup>2</sup>	確認日	2018年4月25日
延床面積	6,593 m <sup>2</sup>	確認者	共同エンジニアリング(株)



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 72% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.7

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
外壁は周辺の住宅と調和した色彩とし、近隣環境への配慮を行っている。また、道路側や隣地側を積極的に緑化し、良好な街並みを形成している。		0
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
専有部分について、界壁の遮音性や昼光率に配慮した設計としている。また、住宅性能評価における断熱性能等級4取得や複層ガラス、F☆☆☆☆の建材を採用するなど、室内環境の向上に努めている。	住宅性能評価における劣化対策等級3相当の措置、空調・給排水配管についても配慮した設計とし、建物のサービス性能の向上に努めている。	外構緑化指数 19.27%、中・高木、ピロティ等の水平投影面積率 10.15%確保し、敷地内の暑熱環境の緩和に努めている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
一次エネルギー消費率96%とする。潜熱回収型の給湯器を採用。共用部全てにLED照明採用。	専有部分について、LGS下地を採用し、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を72%とし、光害対策についても配慮した設計としている。EV用電気自動車充電設備を設置している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
**(仮称)朝霞本町二丁目プロジェクト**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-				<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	1.00	<b>2.6</b>	1.00				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		3.0	0.50	2.2	0.50				
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20				
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.1</b>	1.00				<b>3.1</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.3	0.50				
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63				
2 外皮性能	住宅性能評価における断熱性能等級4取得	3.0	0.38	4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.3</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00				<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.30				
1 昼光率	昼光率4.0%	1.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30				
1 昼光制御	庇およびカーテンによりグレア制御	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00				<b>3.3</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	全ての内装、天井裏等ともにF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		2.0	0.40	2.3	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-				<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00				<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.4</b>	0.30	-	-				<b>2.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		2.2	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		2.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能評価における劣化対策等級3相当の措置	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	住戸の階高2.910m以上	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		住宅性能表示、断熱性能等級4取得	4.0	0.20	-	-	4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>			3.0	0.10	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.96	3.4	0.50	-	-	3.4
<b>4 効率的運用</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LG下地を採用	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率68%	4.1	0.33	-	-	4.1
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明を不使用	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)朝霞本町二丁目プロジェクト	BEE	0.9	BEEランク	★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.1	+	2.6	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
ライフサイクルCO2排出率を68%とし、光害対策についても配慮した設計としている。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
外構緑化指数 19.27%、中・高木、ピロティ等の水平投影面積率 10.15%確保し、敷地内の暑熱環境の緩和に努めている。			

 : 入力欄